

兵庫県丹波篠山地域における 外国人観光客数の誘致

Case.02

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン 関西学院大学委員会

基本情報

インターンシップ
テーマ



SDGs #11
Sustainable Development Knowledge Platform
住み続けられるまちづくりを

【期間】2016年10月～2016年12月（11週間）

インターン
内容

来日前・インターン前半

インターン中盤

インターン後半

- ・篠山市を回りながら海外の目線から見た魅力をリサーチ
- ・ウェブサイト開発の構想

- ・リサーチや地域の人からヒアリングした情報を元にウェブサイトの開発

- ・ウェブサイトローンチ
- ・地域のお祭りや農家を周り篠山地域の魅力を体験して記事にする

受け入れ企業様の声

■ 篠山地域の魅力を、海外の目線で発信する。

▶そもそも、海外インターン生の受け入れを決めた理由は何ですか？

アイセック関西学院大学委員会の方が営業にきたことがきっかけです。海外目線で篠山地域の良さを見つけてもらうため、海外の人とのコミュニケーションを取って情報発信をしたいと考えたため受け入れを決めました。

▶実際にインターン生を受け入れてみて、社内外に何か変化はありましたか？

海外インターンシップを通して、インターン生にウェブサイトの構想、開発、コンテンツ設計までやっていただきました。ウェブサイトを作りきったことが1番大きく目に見える変化です。ウェブサイトを通じて、海外の目線から篠山地域の魅力を発信できたと思います。



株式会社いなかの窓の社員様とインターン生。
中心がインターン生のJulioさん。



Julioさんが制作したウェブサイト
「Go Sasayama」



受入企業

社名	株式会社いなかの窓
業種	インターネット付随サービス業
設立	2015年
規模	5名
受入部署	本部

■ 丁寧な研修生のサポート。

▶ アイセックのサポートはいかがでしたか？

海外インターンシップ受け入れ期間中、インターン生のサポートを丁寧に行っていただきました。また、インターン終了後も企業とのコミュニケーションを継続して行っていることが良かったです。

▶ 受け入れをご検討いただいている企業様へのメッセージ

「インターン生と何をするか」だけではなく、「AIESECと何をしていくか」も視野に入れながらインターン生の受け入れを検討されるのが双方にとって良い結果をもたらすかと思います。



代表取締役 本多紀元様とアイセック担当者の渡邊。

インターン生の声

▶ インターンシップへの参加を考えたきっかけはなんでしたか？

私はよく、留学生をサポートするボランティアに参加していたのですが、彼らはいつも自国の文化のことや、彼らがどのようにインドネシアに貢献したいのかを話してくれました。そんな経験から、私は国境に左右されない時代が来ると信じています。私たちは他国の人々と協働していく必要があるのです。このモチベーションが私をインターンシップ参加へと導いてくれました。

他国の人々はどんな風に働いているのかを知り、関係を築き、今までと異なる環境で働く経験を得るため。また他国ではどんなことが懸念されているのかを知るため。それが海外インターンシップに参加した目的でした。

▶ 実際にインターンを終えて、Julioさんにはどんな変化がありましたか？

いなかの窓でインターンをする前は、私は自分には何もないと思っていました。日本語もわからない、食文化も知らない状態だったので。自分自身のリーダーシップにも期待していませんでした。

しかし、まったく知らない世界に来て、私は毎日新しいことを学ぶ喜びを感じていました。数日経つと日本語も少し覚え、周りの人々と繋がり、影響を与え合ったり、知識を共有したり、深い絆を作ることができるようになりました。

アイセックとともに日本の文化に浸った日々は、本当に忘れがたい思い出です。また、会社の人が私に専門的なことを教えて下さる時には胸が高鳴りました。



インターン生

名前	Julio Anthony Leonardさん
出身国	インドネシア
出身大学	Institut Teknologi Sepuluh Nopember
専攻	情報エンジニアリング
語学スキル	英語、インドネシア語

アイセック担当者の声

■ 自分たちが何を1番やりたいと思えるかを追求。

▶ どのような思いでこの海外インターンシッププログラムを作りましたか？

最初は不安の方が大きかったです。インターン生が来日するまでは、余裕がありませんでした。しかし、アイセックを通して自分たちで作った企画が形になり、社会に少なからずとも影響を与えるんだと思うとワクワクが止まらなかったです。

何が一番正しいやり方かなんて正直わかりません。けれど、企業様、インターン生を含めてどのようなやり方が1番やりたいと思えるのかを優先しました。結果的に、振り返るとそれが良かったのかと思います。

■ 今回の研修は、始まりに過ぎない。

▶ 実際にインターンが実現してみたの感想を教えてください。

インターン終了直後は正直なところ、このインターンが社会に価値を生み出せたか分かりませんでした。ただ、インターンが終わった時にJulioさんから「アイセックでやれて良かった」「このインターンに参加できて嬉しかったし、いろんなことを考えさせられる時間になった」と言ってもらえた時は本当にうれしかったです。3ヶ月間、よく分からないことも含めて必死に試行錯誤した結果、それを喜んでくれる人が目の前にいることがどれだけうれしかったことかは、今でも全く忘れていません。

同時に、今回のインターンは自分たちがやりたいこと・やるべきことの始まりにすぎなくて、ここから勝負だということにも気がつきました。

ここからスタートした気持ちでしっかりと開発していく。その思いを持っていき続けられればもっと価値のあるインターンになるし、自分たちが目指すものに近づけられると思います。

そして何よりも自分たちがやっていることを本当に必要としてくれる社会を作れるのではないかと考えています。それができて初めて今回のインターンが成功したなと納得できるのかなと思います。



アイセック担当者

名前	渡邊 永
所属委員会	アイセック関西学院大学委員会
学年(当時)	2年

